

2年1組 英語科学習指導案

第5限 2年1組教室, 3階食堂

1. 単元名 Unit4 Homestay in the United States

2. 目標

- (1) have to, don't have to, will, must, must not を用いた簡単な対話活動に意欲的に取り組む。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) have to, don't have to, will, must, must not を用いて身の回りのことや、自分のことを表現することができる。
(表現の能力)
- (3) have to, don't have to, will, must, must not が用いられている文の意味を正しく理解することができる。
(理解の能力)
- (4) 日本と外国との生活習慣の相違点について理解する。 (言語や文化についての知識・理解)

3. 指導にあたって

・教材観

本単元はホームステイを取り上げることで、コミュニケーションをはかるための基本的態度について考えることができる題材設定である。ホームステイにおいては、文化の違う「環境」に身を置くことになる。そのため、ホームステイするための心構えや、滞在する家庭のルール、マナーを理解しようとする心が必要であり、本単元はまさに日本とは異なる文化や生活の違いを生徒が気づくように配慮された内容である。

言語材料として扱われている助動詞類は、身の回りのことを表現する上で欠かせない文法事項であり、生徒の表現の幅をよりいっそう広げることが期待されるものである。

・生徒観

英語学習に対して意欲的であり、ほとんどの生徒が日々の授業において積極的に活動することができる。しかし、一方では動詞の活用など未だ基本事項が定着していない様子もうかがえ、新しい単元ごとに関連した既習事項を確認していく必要がある。また、ペアワークにおいて相手を思いやる気持ちに欠けることも時折あり、スムーズに行かないこともある。そのためグループで活動する意義を理解させると共に活動場面を多く取り入れることで達成感を味わわせ、協力して活動しようとする気持ちをより育てていきたい。

・指導観

ホームステイを通してアメリカの生活様式について触れ、日本との違いを考えさせることで異文化理解を深めたい。発表に意欲的に取り組めるクラスではあるが、英語を苦手としている生徒が多いので、助動詞の導入においては語順に注目させ文法に従って正確に表現できるよう指導していきたい。その上で、日本でホームステイする際に「注意すべきこと」を発表する場面を設けることで表現力の向上へと繋げていきたい。

なお、学習の過程においてはペア活動やグループ活動を多く取り入れ、生徒がお互いに学び合い、個々をより高め合うような取り組みを展開していきたい。

・わかる授業に向けて

基礎的・基本的な知識、技能の習得に関しては、普段の授業中の英語活動や、ワークシートを使った振り返り学習で定着を図っている。活用力向上のための授業の工夫に関しては、例えば毎回のウォーミングアップの活動において答えの一文にプラスもう一文付け加えて表現させるなど、既習の知識を引き出し、表現へと繋げさせていく活動を継続している。また、自ら学ぶ力の育成では、基礎的、基本的な知識の確実な習得を図るとともに、発言しやすい雰囲気を作ることで自主的、自発的な学習を促し、生徒が学習の目的を自覚し、進んで学習しようとする態度が育つよう配慮している。

4 本時の学習

(1) 小単元名 Unit4 Homestay in the United States Reading for Communication メモ

(本時 5/6)

(2) ねらい

日本とアメリカの文化を比較し、その相違点を知る。

(3) 評価規準

日本とアメリカの生活習慣の相違点について気づいている。

(言語や文化についての知識・理解)

(4) 指導の重点

本時では生徒が ALT にアメリカの生活習慣について質問をし、その答えを整理し、文章化することで相違点をつかませる。そのため、メモしたことを整理するための視点を与える。

(5) 展開

| 主な学習活動 (配時) | 支援 (○, ●) と評価場面・評価方法 (◇) | |
|---|---|---|
| | JTE | ALT |
| 1. Warm up をする。(5) ・ALT とクリスクロスを行う。 | ○ヒントを与える。 | |
| 2. 本時の課題を確認する。(5) | | |
| 日本とアメリカの生活習慣の相違点を知ろう。 | | |
| 3. 相違点を知るために前時に作成した質問をグループごとで ALT にする。(24) ・質問の解答をメモに取る。 | <p>(生徒に活動の指示をする。)</p> <p>(Bグループの対応) ○メモしたことを整理するための視点を与える。</p> <p>(Aグループの対応) ○メモしたことを整理するための視点を与える。</p> | <p>(生徒が前時に作成した質問に英語で答える。)</p> <p>(Aグループの対応) ○生徒の質問に簡単な英語で簡潔に答える。</p> <p>(Bグループの対応) ○生徒の質問に簡単な英語で簡潔に答える。</p> |
| 4. メモしたことを自分なりに整理する。(5) ・聞き取ったことをもとに、相違点について既習の表現を用いて整理する。 | ◇ALT とのやりとりをもとに、日本とアメリカの生活習慣の相違点について気づいている。 | |
| 5. 相違点について知ったことを発表する。(8) ・発表者以外はメモを取りながら聞く。 | <p>○個別指導をする。 ○既習の表現を使っていかにして英文にまとめているか。(表現)</p> <p>●わかりやすく具体例を挙げるなどして支援をする。</p> | <p>【観察・ワークシート】 ○個別指導をする。</p> |
| 6. 本時のまとめをする。(3) ・本時の活動について ALT の感想を聞く。 | <p>○生徒の英文に補足が必要ならば、補足をする。</p> <p>○今後に向けて、異文化理解を促すようなコメントを加える。</p> | <p>○生徒の英文に補足が必要ならば、補足をする。</p> |

